

布には果して幾許の金子ありたるやも知らざりき。丙友は之を待せ置きたる使者に渡したり然るに之に又乙友は先に甲友に貸て手元に金子少きときは不都合と思ひ、万一の豫備の爲にとて金の用達を丙友に請ひたる次第なりしが、相憎丙友其時丁度所持せざりしより又甲友に使者を送りて借受來りし金子を又其儘乙に渡したり。乙友之を見るに自分より甲友に送りし財布にして、而も封印も自分が附たる其儘なりければ大に不思議に思ひ、翌日三人會合を催はし夫々互に前記の次第を相話して始めて譯が分り果ては大笑したりといふ。

● 第三號問題の答解

吳市 一 狂生

- (一) 月給を取りても損(村)長と云ふが如し
- (一) 東京に在る河を支那川(品川)と云ふが如し

● 問題 全 人

- (一) 一人の吏員を群(軍)吏と云ふは如何
- (二) 市より服役し居るものを郡(軍)人と云ふは如何

